

診療科紹介：放射線治療科

今回は**放射線治療科**をご紹介します。

がん治療の3本柱といえば手術療法、化学療法、放射線療法ですが、その中でも放射線治療が最近注目されています。放射線治療の長所はズバリ**“切らずに治す”**です。治療装置や治療法が改良され、これまでより少ない副作用で“切らずに治す”ことができるようになってきました。放射線治療にはいろいろな種類がありますが、当院ではリニアックというエックス線を出す装置を用いて体の外から放射線をかけることによって病気の治療を行っています。

当科の特徴は次の3つです。

① 『患者さんにやさしいがん治療の観点から、安全で有効な放射線治療の提供をめざします』

最新の装置を用いて、精度の高い治療を行います。副作用を抑えて、治療効果を上げます。

② 『関連各科との連携を深め、がん治療における適切な役割を果たします』

最近のがん治療は、手術、化学療法、放射線治療などを組み合わせて行うことが一般的になっています。私たちの間では集学的治療と呼びますが、一言で言えば“いいとこ取り”です。複数の治療を組み合わせることで、副作用を減らし、効果を上げるのが目的です。一連の治療の中で放射線治療が有効に利用されるためにいろいろな科と連携をとって治療を進めています。また、浜松医大など近隣の病院とも連携を密にすることにより、その方にとって最適な放射線治療が提供できるよう努めています。

③ 『医師、看護師、放射線技師がチームを組み、それぞれの専門の立場で患者さんの治療およびケアを行います』

安全で有効な放射線治療は医師だけでは提供できません。医師がいくら優れた治療計画をたててもそれが正確に病気にあたっていなければ、効果が無いばかりか重い副作用を引き起こしてしまうことにもなります。また、調整不良の装置で治療していても安全な治療は行えません。これら正確に放射線をあてるための作業を行っているのが、診療放射線技師です。

どのような医療行為にも大なり小なり副作用がありますが、放射線治療も例外ではありません。副作用のケアが不十分で最後まで放射線治療が続けられなければ、効果も期待できません。放射線の副作用の対応や放射線治療期間中もしくは治療後の心身のケアを担当するのが看護師の役割です。

当科では医師、看護師、放射線技師が連携し、安全で有効な治療、サービスの提供に努めておりますので、安心して治療を受けてください。

現在、**当院では放射線治療装置の入れ替え工事を行っており、8月から最新の装置での治療が始まります。**今後、高精度な治療も取り入れつつ安全で有効な放射線治療を皆様に提供できますようスタッフ共々頑張っていきたいと思っております。放射線治療に関する疑問などありましたらお気軽にお問い合わせください。



(文責：放射線治療科長 飯島 光晴)

《編集後記》 今回は、「医療HOTステーション」についてお知らせしました。医療センターでは、広報誌ふれあい、医療HOTステーション、市民公開講座、ホームページなどを利用して様々な情報を提供しています。皆さんからのご意見・ご感想をお聞かせ下さい。 発行：広報委員会

〒432-8580 浜松市中区富塚町328 TEL 053(453)7111 : FAX 053(452)9217
URL <http://www.hmedc.or.jp> : E-Mail koho@hmedc.or.jp

県西部浜松医療センター広報誌

No. 11 (平成21年6月発行)

ふれあい



5月23日に開催しました市民公開講座「よくわかる！心臓の病気」には過去最高の400名の方々に起こしいただきました。ありがとうございました。

目次

- ◆ 理事長就任の挨拶
- ◆ お薬情報局：服薬時間
- ◆ 「医療HOTステーション」ご存じですか？
- ◆ 診療科紹介：放射線治療科
- ◆ 編集後記

～ ご自由にお持ち下さい ～

新理事長に就任して

皆さん、はじめまして。
私は、4月に前任者からの
バトンタッチを受け、財団法人
浜松市医療公社の新理事長
として就任いたしました鈴木
伸幸でございます。



理事長就任の前の3月まで
は、浜松市役所の総務部長と
しての職にありましたが、
ご縁があって、ここ医療セン
ターで病院経営のお手伝いを
させていただくことになりました。

最初のご挨拶ですので、ここで私は理事長就任にあ
たっての二つの基本的なスタンス、考えを述べさせてい
ただきたいと思っております。

まず、一つ目は、この医療センターは、昭和48年に
開設、運営されて以来36年の歴史があり、長年に亘
って関係者の労苦の積み重ねの結果、今では、県西部地域
の中核となる医療機関となり、なくてはならない病院と
して機能しております。したがって、今後も、この
医療センターは、よりよい医療サービスの提供に努めな
がら地域医療の発展のため、病院事業を継続していかな
ければならない使命を担っているということです。

次に、二つ目は、事業の継続性を確保するための取り
組みについてです。現下の医療を取り巻く社会情勢は課
題も多く、病診連携など地域医療のあり方とか、人材の
確保、適正なコスト管理や効率的な運営手法など、病院
経営が何かと難しい状況であります。このことから、医
療センターの運営におきましても、今後は更なるサービ
スの充実を図る一方で、健全で安定的な経営のために、
改めるべきことは改め、見直すべきことは見直すことも
必要であるということです。

以上2つの基本的な考え方にに基づき、私は、小林院長
先生の下で、職員、スタッフと共に「安全、安心な地域
に信頼される病院」目指して努力してまいりますので、
どうかよろしく願いいたします。

お薬情報局：服薬時間

今回は、薬の服薬時間についてお話をします。
お薬の服薬時間は、一般に食事に関連して指示されることが多く、
これは、時間がほぼ守られていれば大方良いということで薬の飲み
忘れを防ぐために、食事と組み合わせてあるのがほとんどです。しかし
きちんと服用時間を守らなければならない薬もあります。食事の影響で薬の効果が弱くなったり（強くなったり）、
副作用が出やすくなったりすることがあります。このように薬の服薬時間には2つのタイプがあります。薬の入って
いる袋（薬袋）には必ず服薬する時間が記載されていますので指示を守って服用することが大切です。食事が摂れな
かった時や、飲み忘れたときなどの対処方法については、薬によって異なりますので薬剤師に相談して下さい。
服薬時間については、以下をご参考にしてください。

食前

「食前」とは、**食事のおよそ20分～30分前のこと**です。
食事の影響を受けやすい薬や吐き気止めの薬、血糖値をコントロールする薬、
漢方薬などは、通常「食前」に服用します。

食直前

「食直前」とは、**食事を摂る10分前～直前のこと**です。
食後の急激な血糖上昇を抑える糖尿病の薬などは、「食直前」に服用します。
食直前の薬は、薬を飲んでからすぐに食事を摂ります、早めに服用しますと危険です。

食後

「食後」とは、**食事の後およそ20分～30分のこと**です。
飲み忘れを防ぐために、食後の指示をされるのがほとんどですが、胃を荒らしやすい薬、食事によって薬の効果が
影響のある薬などは、きちんと食後に飲む必要があります。もし飲み忘れるようでしたら、食直後に飲んで良い
です。

食直後

「食直後」とは、**食事のすぐ後（0分～5分）のこと**です。
胃を荒らしやすい薬や消化をたすける薬などは「食直後」に服用します。

食間・食後2時間

「食間」とは「食後2時間」と同じことで、食事のおおよそ2時間後から次の食事のおおよそ2時間前までの**空腹の
時間帯**をさします。胃や食道の表面に作用する薬や、空腹時の方が効果の良い薬、食事の影響を受けやすい薬など
は「食間」に服用します。

薬は正しく
飲みましょう



「医療HOTステーション」ご存じですか？

ケーブル・ウィンディー（浜松ケーブルテレビ）が制作放送している5分間の
医療情報番組をご存じですか？ 当院のエキスパートが、毎回さまざまなテーマ
についてお話しています。平成20年4月から放送を開始し、既に30本以上の番組
をお届けしています。

今年度既に放送された番組は、当院ホームページでご覧になることができます。
是非、一度ご覧下さい。（4月：予防接種・救急医療、5月：五月病・便秘）

6月は「五十肩」と「食中毒」についてお話をしています。

放送時間は、ケーブル・ウィンディーホームページをご覧ください（<http://www.hctnet.ne.jp/index.html>）。

